

北小だより

～えのきごころ～

高崎市立北小学校学校通信

2010(H22). 6. 21. 月

No. 31

文責:山崎貞幸

えのきのように やさしく 強く やりぬく子

元気の出る源は?パート2

□子どもの笑顔。ひたむきな姿。感動場面。スポーツゲーム。やっぱり「何よりも子どもが元気なこと。」

□開会式での中島教育長のお話によりますと、「高崎市小学校体操演技会」は、今年度で44回目を迎え、会場の中央体育館も46年目だそうです。老朽化してきているので、新しい場所で、新体育館の建設も考えているとのこと。また、「体操」は、

自分の「^{からだ}体」を「^{あやつ}操」という意です。自分の思うまま(イメージ)に自分の体を動かすように練習してできるようになれば最高ですね。さらに、西小学校の長井校長先生は、1964年の東京オリンピックに出場した遠藤幸雄選手が当体育館で練習したエピソードや「最後まであきらめずにがんばること」がだいじだと語ったことを憶えているそうです。

□なぜ、高崎市独自の体操演技会が今まで存続しているのかの理由がわかる気もします。北小学校の30名の大選手団も練習の成果を存分に発揮して今まで以上に頑張りました。お疲れ様でした。感動をありがとう!保護者の皆さん、応援を心から感謝申し上げます。

□1日中の体育館内で過ごした学習の思い出が大人になってからも記憶の中に残ることでしょう。選手の中にも保護者が体操演技会に出場し、親子そろっての輝かしい出場者が3名いました。

□高崎市の60校の代表選手が一同に集まって行く意義を大切にしたいものです。演技会後の優秀演技者による模範演技にみる美しさは芸術的でさえありました。まさしく練習の成果によって自分の体を操ることができるようになった姿でした。目標の最高を目指すことの厳しさも練習が教えてくれているような気がしています。すばらしい演技をみせてくれた全員に大きな拍手!を送ります。



頑張って演技した選手達。
下は、閉会式の模様。



2010 FIFA サッカー-WORLDCUP 南アフリカ(SOUTH AFRICA)大会~part II

「負けても元気が出るゲーム」
をありがとう!

○6/19/土. [にわかサッカーファンより]

☆南アフリカで熱戦を繰り広げている 4 年に一度のワールドカップ争奪のサッカー大会において、予選リーグトップを目指している日本は、強豪といわれているオランダと対戦し、0-1で惜敗しました。したがって、決勝進出は、24 日(日本時間で 25 日早朝)のデンマーク戦(予選リーグ最終戦)の勝敗にかかってきました。

☆実力が明らかに劣っているといえども対戦しない限り勝敗はわかりません。それは勝っているチームが相手チームをみくびるか、疎かにする心の隙間に相手チームにつけいられるか、相手が死にもものぐるいで戦い、奇跡を起こすことなのだと思います。

☆自軍の監督、コーチは自チームの選手を信頼し最後まであきらめずに勝利を願って、選手とともに戦っている姿が感動を呼ぶのです。きっと、日本チームは一步一步確実に実力をつけてきているのだと思っています。全力で戦ってきてほしい。

夏至・局地的な暴風雨に要警戒!

☆「夏至」=24 節気のひとつ。太陽の黄経が 90 度に達する時で、北半球の昼が最も長く、夜が最も短い。日の出から日の入りまで(東京時)ではかると、5 時間 10 分という昼夜の差があるようです。曇り空なので、14 時間 35 分という昼の長さの実感はあるのでしょうか?

☆暦の上では夏ですが、今は梅雨時、最近は、局地的な集中豪雨が襲ってきます。登下校時には特に、河川の増水・氾濫などの注意とともに、傘をさして歩いて歩行困難も考えられます。子どもたちへの安全な登下校を日常的に声かけをしていただければ幸いです。